令和８年度第２回塩竈市地域公共交通会議　議事録

日　　時：令和８年７月 30 日（木）　10：00～10：30
場　　所：塩竈市役所３階北側委員会室
出席委員：千葉会長、及川委員、熊谷委員、伊藤委員、郷家委員、菅原委員、猪俣委員、
　　小山委員、髙橋委員、佐藤委員、村田委員、大友委員、鈴木（健）委員（計 13 名）
欠席委員：川村委員、鈴木（新）委員
事 務 局：塩竈市総務部政策課

１．会議目的

ミヤコーバスがゴルフ場線の廃止を検討していることを受けて、本市におけるバス運行の今後の方針について協議するもの。

２．議事要旨

［報告事項］

しおナビバスのルート変更案について、事務局から説明

［質疑等］

委　員：確認だが、塩竈市は地域公共交通計画を策定しているのか。

事務局：現時点で策定には至っていない。

委　員：計画が策定されていない状況で、何を基準に判断すればいいのかわからない。その都度委託先であるミヤコーバスの都合や、市民の方々の意見を伺わなければ何も新しく決められない。地域の代表として意見を述べているが、地元のエゴしか言えない。利府町の計画は多面的に分析されていてよくできている。優先すべき事項や、地域交通の在り方について指標がない中で意見を伺われても困る。

また、ゴルフ場線廃止が来年３月ということで、ミヤコーバスの負担を増やさないことを前提に１日に走る便数が 11 本から９本になると、頭からそのような制限事項を言われて検討するのは難しい。民間事業者が、採算が合わず、運転手が不足している状況で路線撤退するのはやむを得ないとは思う。ただ、路線の廃止を受けて、路線を補完すべき自治体が委託先の影響を受けて、あれもこれもできないというのはいかがなものか。

事務局：ミヤコーバスの独自路線であるゴルフ場線の廃止をどのように補完していくか、完全廃止は避けたいので、持続可能な範囲で、地域交通が持続できるよう協議を進めている。

委　員：そうではなく、なぜ、検討段階で運転士の業務量を増やさないことを前提としたのか疑問である。資料からは減便することしか読み取れないが、朝、夕の便は確保されるのか。

事務局：ダイヤについてはミヤコーバスと協議中である。市内循環線の第１便は７時 30 分くらいの出発を予定しているが、その前に６時 30 分発のシャトル便の運行を検討している状況である。

委　員：市として民間事業者の収支が厳しい中で、市が公共交通の足をどう確保しようかという考えが最初になければ何もできなくなっていくのではないか。また、地域公共交通計画がなければ、判断の基準にならないと思う。市としての計画や考えを示されれば委員も意見が言いやすく、

市役所としても動きやすいと思うので、改めて、地域公共交通会議の策定を検討いただきたい。

事務局：法律上地域公共交通計画の策定は努力義務であったので、まだ計画策定に至っていないが、このような意見を踏まえて、計画の策定を検討していきたいと考える。

委　員：ルート変更案について、非常にありがたいと思う。シャトル便を使うなどして、朝、晩の特に北部方面の通勤通学の足の確保をお願いしたい。また、現状のしおナビバスのダイヤについて、１時間に１本と非常にわかりやすいものになっている。ルート変更によって、所要時間が増加することにより、このダイヤは崩れ、利便性も落ちることとなる。厳しいとは思うが、できる限り利便性を損なわず、工夫して変更後のダイヤの周知を行っていただきたい。

事務局：現状のしおナビバスに比べて、利便性が落ちてしまうのは避けられないところがある。ダイヤ改正によって、市民の皆様に不便をかけるのは申し訳ないがご理解いただきたい。

会　長：現状のしおナビバスはとてもわかりやすく使いやすいダイヤというのも売りの一つであった。改正後のダイヤの周知については課題となってくる。一方で、ゴルフ場線と比べて、運賃が下がることもあるが、使ってみないと実感はできないと思う。通勤通学でゴルフ場線を使っている方は、生活スタイルを変える必要がある。今後の説明会やアンケートを踏まえながら、変更案を含めて、最終提案をどのようにして市民へ説明していくのかも課題である。

委　員：令和８年３月のゴルフ場線の減便によって、どのような反応があったか。また、減便前と減便後で利用者数はどのように推移したか。

事務局：市の方には特段苦情等は来ていない。利用者数については、ミヤコーバスからは減便後の４月分の利用者数データのみいただいて、比較はできていない。

委　員：特段苦情の方が来ていないが、ゴルフ場線についてはかなり収支が悪い。運行経費が 3,000 万円ほどで、運賃収入が 600 万円、（国からの）補助金が 400 万円、残りの 2,000 万円についてはミヤコーバスが負担している。さらに、運転士が不足して、給料を上げていく必要があり、かなり厳しい状況である。

会　長：今回は具体的にルート案を示したが、ダイヤについてはまだ示せていない状況で、意見が言いづらい部分もあると思うので、会議後にでも意見や疑問をいただきたい。
また、地域公共交通計画について意見があったが、既に策定している各自治体より、計画を作るにあたってのご助言等をいただきたい。

委　員：利府町は、だいぶ前に計画を策定し、今年度の 10 月からデマンド交通 mobi の本格運行を予定している。シビアな世の中で、人によって見る観点が変わってくると思うので、指標になるような町の考えや方向性が必要だと思う。当市でも、葉山地区など市街地から離れている地域についてはどうすればいいか苦悩した。主要となる計画はなるべく早く作成した方がいいと思う。

委　員：多賀城市は昨年、協議会を立ち上げて計画を策定した。市独自で考えたルートの実証実験を踏まえて、今後の公共交通の在り方について検討していく予定である。計画があればいろんなことをやっていきやすくなると思うので、計画策定はした方がいいと思う。

会　長：県内で計画策定している自治体は増えてきている。今すぐに対応するのは難しいが、今後、地域公共交通計画の策定について事務局と考えていきたい。

３．その他

委　員：塩竈市は今年度、都市計画マスタープランの更新をしていて、災害時の避難のルートなどをはじめとしたまちづくりの在り方の計画について見直しを行っている。これを踏まえて、交通計画も策定していけるのではないかと思う。

会　長：塩竈市は立地適正化計画・都市計画マスタープランを作成中で、ゴルフ場線の動向も反映させる予定である。地域公共交通の在り方、国の制度も変わってきているので、そのあたりも踏まえて、自治体として責任を持って、市民の足の確保に努めていきたい。

事務局：今後のスケジュールについて、8 月 22 日の 10 時から塩竈市ガス体育館、8 月 30 日 10 時から公民館で説明会を行う予定である。